

平成22年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
II-3	なかはらバンジー体操事業	新規	平成22年度	地域保健福祉課

1 事業概要

事業実施主体	地域保健福祉課		対象者	地域に暮らす高齢者		■当初予定事業 □緊急対応事業
事業形態	■直営 □一部委託 □全部委託 □その他 ()		関連事業局 ・事業内容			
目的及び内容	<p>中原区においても高齢化が進み要介護・要支援高齢者が増え、認知症に関する相談が増加している。これらを防ぐには、生活機能を維持して外出や社会的な交流を促進することが重要となる。高齢者が健やかに生活して、支え合える地域づくりを目的に実施する。</p> <p>区民が身近に体操をできる機会を増やし、区民との協働により地域において介護予防活動を推進する。</p>					
予算額	1,173,000 (円)	決算額	1,167,160 (円)	不用額※	5,840 (円)	
※不用の理由						
結果・成果	<p>【事業実施状況・成果物などの写真等】</p>  <p>福祉健康まつりで体操を披露</p>		<p>中原区地域包括支援センターおよび健康運動指導士と共に、なかはらバンジー体操を作成した。区民が親しみを持てるように「なかはらバンジー体操」を名称とし、川崎で活躍しているアーティスト（スタイルスリー）の楽曲を使用。区民ボランティア30名を公募し、なかはらバンジー隊として区内で普及活動を実施した。また、多くの区民が体操できる機会を持てるように、DVD100枚・VHS60個・リーフレット1,500部作成し、普及活動と併せて配布を開始する。</p>			
	実施時期 (開催日/ 回数等)	ボランティア養成講座 7～11月に計11回 普及実施回数 17回	参加 人数等	ボランティア養成講座 計28人 のべ264人 活動場所における参加者 のべ約495人		

2 事業評価

評価の結果と理由（緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること）
<p>当初、高齢者にとっては体操動作が難しいのではという懸念もあったが、参加者の反応は「リズムに合わせて楽しく動くことができた。」「続けて行ってきたい。」と概ね好評であった。地域の町会・老人クラブ・介護予防自主グループ等より月平均10か所ほど要望があり、体操をきっかけとした交流が図られることで地域づくりにも寄与していると思われる。</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
<p>■見直し・改善の上継続 □終了を見越して継続する □現状どおり □終了する</p>	<p>平成23年度は、新たな区民ボランティアを公募。養成講座修了後は、平成22年度に養成したボランティアとともに、普及啓発に努めていく。また、既存ボランティアに対しては、継続した活動支援を目的としてフォロー講座を実施していく。</p>	B

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

※ 区民会議からの主な意見

<p>体操を契機として住民同士が交流しており、良い取組である。体操の認知度を高めていくことが今後も必要である。</p>

平成22年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
III-1	働いている妊婦への支援事業	継続	平成20年度	保健福祉サービス課

1 事業概要

事業実施主体	かわさき助産師ネットワーク SUN ²	対象者	働きながら子育てをする 予定の妊婦とパートナー	<input checked="" type="checkbox"/> 当初予定事業 <input type="checkbox"/> 緊急対応事業	
事業形態	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他()	関連事業局 ・事業内容	—		
目的及び内容	<目的> 就労女性の増加に伴い、仕事と家庭生活の両立に関心が高まると同時に、不安を抱える人も増えていることから、対象者の不安を軽減し心の準備ができるようにする。そして夫婦が協力し合って仕事と子育てや家庭生活を営むワークライフバランスのイメージが持てるようにする。 <内容> ①妊娠・出産・子育ての知恵(講話) ②子育て支援情報紹介 ③先輩ママ・パパとの交流 ④保育施設の紹介や認可保育園入所案内 ⑤体験コーナー(赤ちゃんお着替え・スリング・妊婦体験等)				
予算額	221,000(円)	決算額	167,571(円)	不用額※	53,429(円)
※不用の理由	東日本大震災の影響により、1回を中止としたため。				
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】  (先輩ママ・パパの交流)	土曜日に区役所五階会議室において実施した。3回の参加妊婦の合計146人、パートナー130人、先輩親子等49人であった。参加者の関心事は①保育園②出産・育児③先輩ママ・パパの体験談が多かった。 内容についてはどの項目も「大変良い」「良い」が8割を占め、「7人で参加できて良かった」、「参考になった」、「充実していた」など概ね好評であった。 当日の運営は、かわさき助産師ネットワーク SUN ² のメンバーが中心となり、保健福祉センター、関東労災病院看護職が協力し円滑に実施できた。			
		実施時期 (開催日/回数等)	H22.6/26、9/26、12/12 (計3回)	参加 人数等	325人

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
<ul style="list-style-type: none"> ・土曜日開催により、参加者の86%がパートナーとともに参加し、2人で出産後の生活への心構えができた満足度は高かった。また参加者の68%が平日実施の両親学級に参加していなかったことから、平日の両親学級の補完ができた。 ・毎回男女とも保育施設についての関心が高く、待機児数や保育園に入所できるかどうか等、切実なニーズがあった。 ・乳幼児健診に来院した人に「先輩ママ・パパ」としての参加を募り協力を得た。先輩に保育園のことや日常生活の様子を聞き、これからの生活へのイメージ作りに役立っていた。また、先輩ママ・パパも楽しく参加し、市民参加型の事業として展開できた。2年目となり3者の協働事業としてチームワーク良く運営実施した。

3 事業の方向

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善の上継続 <input type="checkbox"/> 終了を見越して継続する <input type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 終了する	昨年の反省を活かし、先輩ママ・パパの参加者数を増やし、参加者が市座になって体験談を聞き交流できたことは参加者のニーズに合っていた。各内容の時間配分を再検討し、参加者同士の交流、先輩ママ・パパ同士の交流も行い、継続して参加してもらえる仕組みを作っていく。	B

※ 区民会議からの主な意見

中原区は子育て世代の人口が多い区であり、今後も充実させながら取り組んでもらいたい。

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
Ⅲ-2	多胎児育児支援事業	継続	平成18年度	保健福祉サービス課

1 事業概要

事業実施主体	中原区役所	対象者	中原区在住の多胎児を持つ親及び多胎児育児に関心のある区民	■当初予定事業 □緊急対応事業
事業形態	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他 ()	関連事業局・事業内容	—	
目的及び内容	多胎児の育児は、精神的・身体的・経済的負担が大きく、虐待のリスクが高いと言われている。また妊娠期から情報が少なく育児も孤立しやすい。中原区は多胎児の出生が年間約30~40組と多いことから、ボランティアと協働し、多胎児家族が交流できる場を定着させ、多胎児家族の相互支援を目指すために以下の支援を行う。 ①交流会の開催、②多胎児育児の情報提供としてピーナッツ通信を発行、③ボランティアグループ「ピーナッツ」の定例会を毎月開催、④ツインキッズOBママ交流会の開催、⑤ボランティアグループ強化のため研修会を実施			
予算額	354,000 (円)	決算額	282,702 (円)	不用額※ 71,298 (円)
※不用の理由	東日本人震災の影響で、ボランティアグループの研修会や交流会が中止となったため。			
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】  (エポックなかはら交流会)		①区内3会場での交流会の実施 エポックなかはら 9月17日 10組(31人) 下沼部町内会館 11月19日 6組(18人) 国際交流センター 12月17日 8組(24人) ②ピーナッツ通信120世帯に郵送 ③「ピーナッツ」の活動支援及び交流会の企画・運営(通年 参加者実数13名 延べ83名) ④ツインキッズ開催と併せてOBママ交流会を年3回実施。就園後のOBママ3名とピーナッツのOBママ10名の参加があった。 ⑤多胎児サポートネットワーク代表による研修会を予定していたが、震災の影響により中止とした。	
	実施時期(開催日/回数等)	上記記載	参加人数等	上記記載

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること) 交流会では、先輩双マママが進行を行い、様々な体験談を語り合うことで、ピアサポートの機能をとることが出来た。多胎児の保護者が住む、身近な地域での会場で開催したこともあり、今までツインキッズなど交流の場に参加できなかった母子の参加が認められ、また妊婦も含めた交流が行えた。また、OBママ交流会を実施したことで、就園後の児を持つ保護者と、多胎児育児支援の必要性を確認し、ピーナッツの活動をPRする良い機会となった。 孤立しやすい多胎児家族に向け、ボランティアグループ「ピーナッツ」の紹介とともに交流会や多胎児育児中の親子の様子を伝える「ピーナッツ通信」を発行。保健福祉センターに来所できない多胎児家族にも支援があることをPRできた。
--

3 事業の方向

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
■見直し・改善の上継続 <input type="checkbox"/> 終了を見越して継続する <input type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 終了する	ボランティアを中心に交流会を実施、多胎児育児支援の実績を積み、区民の中でも定着してきている。今後、母体となる「ピーナッツ」の組織強化のため、新たなボランティアの発掘や多胎児育児経験者のボランティアの参加など各機関等との連携を検討していく予定。また、参加できない家族へ活動のPRを行い、参加意欲を促し、エンバワメントの向上を目指す。	B

※ 区民会議からの主な意見

子育てサロンと「ピーナッツ」の交流も生まれている。今後も継続してもらいたい事業である。

平成22年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
III-3	乳幼児ふれあい事業	継続	平成19年度	保健福祉サービス課

1 事業概要

事業実施主体	中原区役所		対象者	乳幼児健診来所の親子		<input checked="" type="checkbox"/> 当初予定事業 <input type="checkbox"/> 緊急対応事業
事業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他()		関連事業局・事業内容	—		
目的及び内容	中原区は大規模開発等により、乳幼児数、転入者が増加しており、地域の子育て情報に対する需要が高い。また、乳幼児健診の受診者数も増加している。乳幼児健診の来所の機会、待ち時間を利用し、子育て情報の提供するための子育てアドバイザーの設置、親子ふれあいを促進し健診の待ち時間を楽しく安全に過ごすための「にこにこコーナー」を開設する。また、子育てに理解のある子育てボランティアとともに事業を実施する。					
予算額	1,219,000 (円)	決算額	1,198,840 (円)	不用額※	20,160 (円)	
※不用の理由						
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】 		すべての健診の待ち時間の機会を利用して、専門職による子育て情報や、地域の子育て情報の提供を行うことができた。また、待ち時間を楽しく安全に過ごすための保育士による遊びのスペースであるにこにこコーナーや、ボランティアによる見守りがあることで健診を安心して受けてもらう環境づくりをすることができた。ほとんどの親子が利用し、専門職による親子遊びの方法についてのヒントが得られた、「おもちゃで楽しく過ごせてよかった」等の評価が参加者より得られた。			
	にこにこコーナー 保育士による親子遊び		実施時期 (開催日/回数等)	平成22年度通年	参加人数等	年間108回実施

2 事業評価

評価の結果と理由 (緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
健診の待ち時間を利用して、専門職による子育て相談や情報提供、ふれあい遊びなどを提供すること、更に健診の機会を有効に活用することができ、楽しく安全に健診受けるために重要で必要不可欠な場となっている。ボランティアの存在も地域の子育て支援を行うためにも重要である。今後も、引き続き乳幼児の増加、転入者の増加は考えられるため、優先的に取り組むべき事業である。

3 事業の方向

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
<input type="checkbox"/> 見直し・改善の上継続 <input type="checkbox"/> 終了を見越して継続する <input checked="" type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 終了する	健診時に必要で有効な事業となっている。今後も、引き続き、乳幼児の増加、転入者の増加が考えられるため、子育て情報に対する需要も引き続き高く、健診者の受診者数の増加も見込まれるため継続実施し、内容の検討等を行っていく。	B

※ 区民会議からの主な意見

健診の待ち時間は母親同士の情報交換の場にもなっている。大変役立っている事業である。

平成22年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
Ⅲ-4	中原区子育てネットワーク事業	継続	平成18年度	こども支援室

1 事業概要

事業実施主体	中原区子育てネットワーク	対象者	区内の子育てに関わる関係機関、団体	■当初予定事業 □緊急対応事業	
事業形態	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他()	関連事業局・事業内容			
目的及び内容	子育てに関わる団体・関係機関等が子育てに関する課題を共有し、課題解決にむけた支援をおこなうため、子育てネットワーク会議を年4回開催。子育てネットワーク会議では、情報交換やネットワーク事業の進行管理を行うと共に、全体事業としてマタニティ&ファミリーコンサート、親子交流事業、子ども未来フェスタを開催した。また、部会を設置し、子ネット通信部会では、タイムリーな子育て情報の発信、ボランティア部会は研修、自主グループ支援部会では自主グループリーダー交流会を行う等、活発に活動した。				
予算額	3,232,000(円)	決算額	3,231,226(円)	不用額※	774(円)
※不用の理由					
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】	全体事業として、マタニティ&ファミリーコンサートを12月に実施し、750名の参加を得た。また、父親向けを含む親子講座を計13回開催し、親子75組が参加した。子ネット通信部会では、子育て中の母親が中心となり年12回の編集会議を開き、隔月で「子ネット通信」を8,000部/回発行した。自主グループ支援部会では自主グループリーダー交流会を3回開催し、計180名が参加した。子育てボランティア部会では、ボランティア研修を2回開催し、43名が参加した。また、子どもネットワークと協働し、子ども未来フェスタを開催し、区民2500人が参加した。			
		実施時期 (開催日/回数等)	上記のとおり	参加人数等	上記のとおり

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
地域で活動している子育てに関係する自主グループや、ボランティアグループ等と行政機関、公共的活動を行う団体などが集い、地域の子育てを支援していくという共通認識の下に、情報交流を行い、連携を深め、子育て支援事業を実施した。 「子ども未来フェスタ」については、実行委員会等を通じて、また「マタニティ&ファミリーコンサート」については子育てネットワーク全体で実施し、ネットワークの参加者同士の交流を図りながら、ネットワークとしての役割を発揮した。

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善の上継続 <input type="checkbox"/> 終了を見越して継続する <input type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 終了する	参加団体等の活動の実践を積み上げ、地域課題を共有すると共に、区民と協働して事業実施を図る。	A

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

※ 区民会議からの主な意見

子育て世代の多い中原区にとって、関係団体が交流することやイベントを開催していくことは大切な取組である。
